



写真等無断転載禁止

高等学校での米に関するアンケートについて

千葉県立浦安南高等学校 檀村 豪紀

今年の5月、新聞や全国ネットのニュースで千葉市の下大和田が取り上げられた時には純粋に驚きとワクワクした気持ちを感じた。千葉県で生物を教えている身としては恥ずかしながら、千葉市でホンドキツネがまだみられるとは思わなかったからだ。このいなくなってしまった生物がまだいるかもしれないというワクワクした気持ちをぜひ生徒にも伝えたいと思い、授業でこの動画を紹介した。また今、下大和田地区で問題となっている製造・流通団地の開発計画についても紹介し、生徒に考えてもらう授業にすることができた。

その後、夏に下大和田で行われている米作りの映像をいただいたことを機に夏休み明けの授業で日本人としては欠くことのできない「米」についての授業をしてみようと思った。日本では約3000年前から稲作が行われ、そのために水田が各地につくられていった。その中で、水田を利用する生物たち、例えばトンボやホタル、カエルなどのいわゆる里山生物と呼ばれるような生物たちが増えていき、日本独特の生態系がつくられていった。日本の里山生態系は高等学校の生物で扱われる生物多様性を理解するうえで重要な項目であり、こういったことを米の授業を通して生徒たちに伝えたいと思った。

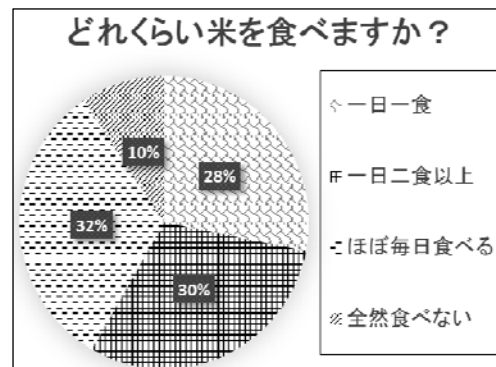
授業を展開するうえでまず、今の高校生たちの米に対する意識を聞いてみることにした。近年、パンブームが広がったこともあり、米の消費量が落ちているとよく聞く。感覚的には感じていた若者の米離れについて授業でアンケートを取り、自分の教えている生徒たちの現状を把握してみようと思った。

実際に行ったアンケート結果が〈グラフ1～3〉である。回答してくれた生徒は全部で91名。アンケートの質問は各グラフの表題の通りである。まず、驚いたのは「どれくらい米を食べますか？」に対する回答だが、全然食べないという生徒が10%もいたことだ。本校には外国籍の生徒も在籍しているのでそういった中に一定数の米を食べない生徒がいるが、それを考慮しても多いと感じた。

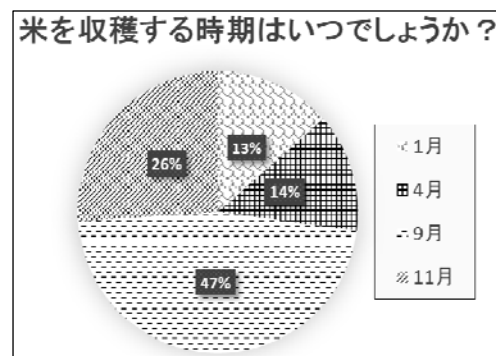
また、米を収穫する時期に関しては半数の生徒が

いつ収穫しているかを知らないという結果になり、新米についてはなんと半数が新米自体を知らず、新米を食べたことがあると答えた生徒は24%しかいなかった。この結果を見て、今まで感覚的に米離れを感じていたところが実際に起こっていることなのだと知ることができた。

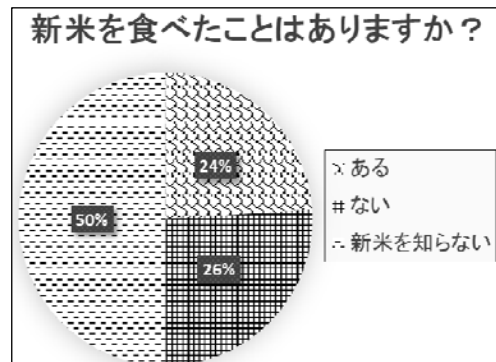
授業後の感想では「米は日本の象徴であり、今後もしも続けなければいけない文化だと思えます。その場所が工場になることによって、米栽培に興味を持つ子供が減り、稲作農家が減る恐れがあるのであまり良くないと思いました。」と米が日本において重要な存在と感じている生徒が多かった。



グラフ1



グラフ2



グラフ3

しかしながら、米は教育現場で扱われる機会が限られ、田植えなど実際に触れることがほとんどなくなってしまっている。その中で下大和田での米作りは市民の方々が体験でき、とても重要なことである

と改めて感じた。どうか、今後も高等学校の授業で米について扱い、少しでも生徒たちにいろいろな場面で米に触れる機会を増やしていくべきだと強く感じた。

下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書への

市民から出された意見 ②

先月号に引き続き、下大和田町開発計画に係る環境影響評価方法書への市民から出された意見を掲載いたします。(原文のまま)

・環境保全の見地から、当開発計画は撤回または里山を残して大幅な縮小をさせるべきと考えます。以下、その理由を述べます。

下大和田の谷津田は、「環境省生物多様性保全上重要な里地里山」に指定された、生物多様性豊かな里山です。希少な動植物の宝庫です。また、2000年から子どもたちが自然に親しみ学ぶ市民活動が、ちば環境情報センターによって、地道にたゆまなく継続されてきた谷津田です。

・子どもたちの未来こそ、市政がもっとも気を配るべき分野です。里山は子供たちの健全な育成に貢献しています。

・下大和田は鹿島川の上流域、佐倉市は鹿島川の下流域にあたり、その水質に大きな影響を与える開発計画は歓迎できません。開発計画を野放しにしておけば、県民の水がめである印旛沼の水質がじわじわと悪化することが予想されます。

・当地の里山は、グリーンインフラの観点から、千葉市及び千葉県の社会基盤として重要なエリアです。自然環境は、動植物の生息の場の提供だけでなく、良好な景観形成、気温上昇の抑制、防災・減災、保水機能、がけ崩れの防止、樹林による二酸化炭素の吸収など、多方面にわたってその機能を発揮し

てくれています。

・したがって、市民・県民の自然資本として市有地として保全することが望ましいと考えます。財源は、広く納税者から集める森林環境税を充てます。

・地球はヒトだけのものではありません。ヒトは自然環境の恵み(生態系サービス)を受けて豊かな暮らしを手に入れました。地球環境保全・温暖化防止等の国連が積極的に取り組む世界的流れは、私たち自ら、動植物の運命も巻き込み、ヒトの生存を脅かす事態を招いてしまった反省の結果です。こうした流れに乗って地球環境保全の動きを進めることこそ、市民のために尽力されている行政の責務と考えます。

市長に望むことは、ちば環境情報センターが活躍している谷津田における土砂による埋め立てをやめさせること、斜面林を含めた自然環境と子供たち育成のためのエリアを余裕をもって十分残すこと、数年をかけて森林環境税を充て市有地として自然環境保全する計画を立てていただきたいことです。ご検討のほどよろしく願いいたします。

・下大和田の開発によって森が減り商業団地になることが非常に残念です。できるだけ緑と湧水を壊さないようにお願いします。

私は小学校で1年生の担任をしています。大和田谷津田でとれた生き物や植物を学級の子どもたちに見せることが多いのですが、子どもたちは目を輝かせて見入っています。また、我が子3人もこの谷津田で貴重な体験を積み、心が豊かに育っていま

す。田んぼは残していただけるとのことで大変有難く思っています。しかし、田と森と川はつながっています。広大な森が消えてしまうことで生き物たちのすみかがなくなってしまうことが心配です。この豊かな自然と動植物を後世に残せることができればどれだけ多くの子どもたちのためになるのでしょうか。自然は一番の宝です。

・私は田んぼの周りを工場にすることに反対です。私は小学6年生で、小学1年生のときから田んぼにきています。今まで、こんなきちょうな体験をさせてくれてありがとうと思っていたのですが、開発の話聞いてショックを受けています。アマゾンの森

に道を作ったら森の木がかれるように、田んぼの周りを開発されたら、田んぼが使えなくなってしまうかもしれません。それに開発に条件があまり適していないので、これは、あまりにもリスクが大きい賭けなのではないのでしょうか。

・環境影響評価項目について

① 地球環境保全への貢献に係る環境要素－温室効果ガス－二酸化炭素 について

・ 供用による影響を調査等の項目に挙げていますが、現に存する森林に蓄えられている二酸化炭素は造成等の工事により、伐採・処分され、二酸化炭素は空气中に放出され、吸収能も失われます。

・ その量を把握、評価し、対策を講じてください。

② 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持に係る要素－水象－河川流量 について

・ 造成等の工事による影響を項目として挙げていますが、現況の谷津田部分はそのまま湧水機能を有しています。それを埋め立てることは、その量だけ湧水機能を失います。

・ 「地形変更後の土地及び工作物等の存在」(盛土)についても予測評価し、対策を検討してください。

③ 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持に係る要素－水象－地下水・湧水 について

・ ①と同様に現況森林の地下水涵養機能を失うことは明らかです。

・ その量を評価し、その代償として雨水浸透システムの導入を考えるなら準備書では具体的な数量で示してください。

④ 調整池の構造等は生態系保全や人と自然との触れ合いの活動の場としても重要であり、準備書にまとめる前に計画策定段階で活動団体等と協議し、市民参加による計画づくりをしてください。

・ 方法書を拝見しました。開発計画自体の具体性がまだまだ明らかでないため、環境影響の調査や評価などの方法が漠然としており、十分でないように感じました。特に気になるのは、開発が地下水に与える影響についてです。具体的には以下の2点です。

1. 産業用地となる部分の地面はアスファルトなどで覆われることとなるので、道路などの舗装される敷地があることも考えると、少なくとも開発面積の60パーセント以上が覆われ、本来、地面から浸透し、地下水として貯えられる雨水が地表から、調整池や河川に流れていってしまいます。しかし、地下水がどれだけ減少するのかについて全く考察されていませんし、減少する場合の具体的な対応が記されていません。

2. 中野インターチェンジが至近にあることで、

想定業種を製造業としています。進出企業が製造業であれば、製造過程で大量の水を使用することが容易に想定され、コスト面から地下水を汲み上げて利用することが普通だと考えます。しかし、地下水がどれだけ減少するのか、また、それにより地盤沈下はどうかについて全く考察されていませんし、これらが起こった場合の具体的な対応が記されていません。

グーグルマップなどで確認するとこの開発を計画している場所及びその周辺には、多くの農地があり、地下水が減少するなどした場合には相当な範囲で生産農家への影響があることが想定されますので、まずは、開発による地下水への影響を明らかにし、場合によってはそれに対応するなど、地域に住む方が安心できるような調査や対応などを望みます。

・ ぼくは、下大和田谷津田で、お米作りをしました。たくさん生き物を見つけたり、さがしたりしました。谷津田には、絶滅危惧種やぼくが見つけてみたい生

き物がたくさんいるので、こわさないでください。谷津田をこわしたら、水がよごれて生き物がすめなくなりそうです。いやです。

「方法書についての意見の概要 一覧表」は以下で見ることができます。

(令和5年度環境影響評価審査会 第2回 令和5年7月20日)

参考資料3 : https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/documents/r5-2_sankou3.pdf

新浜の話68 ～ありがたや、ユンボーくん～

1997年3月、行徳内陸性湿地再整備第二期工事が終わりました。と言っても、ポンプ設置や電気工事はあともう少し先。じっさいは、揚水開始までにはまだ延々と日時がかかったのですが、夢にまで見た淡水湿地のもとにはできたわけです。ポンプ設置後のあれやこれやは次号に。

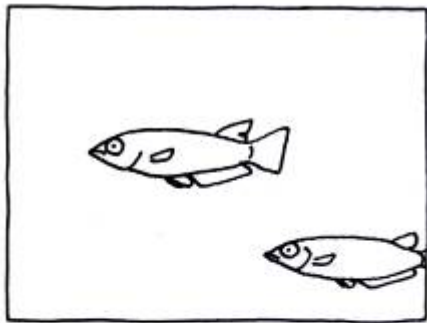
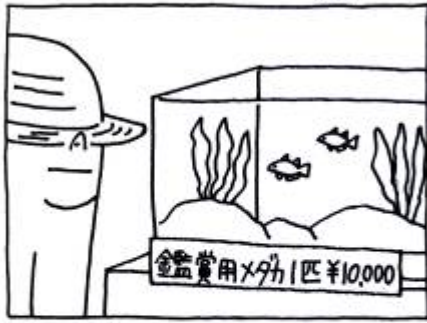
この再整備事業で、保護区本土部のほぼ半分の面積は湿地に変わります。湿地の生きものにとっては住みやすい環境ができるはず。それでも、この中で

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

これまで生きて来たもろもろの生きものたちは、命や生活の場を失ったことでしょう。心して働かねば。広大な工事現場を見渡すと、最初は気が重いばかりでした。どうすればこれだけの面積を、希望している浅い水たまりの状態に保つことができるか。水源、ポンプ、パイプライン、水車、草刈り、耕耘、道路維持、水路維持、水位調整等々。列挙するだけでお先まっくら。

スロマン 作:つやま あきこ

33



つやまあきこウェブサイト
21世紀絵コロッジ <https://21eco.net/>

先々の管理作業で、どうしても手作業では無理があると思い、わざわざ三多摩にあった教習所までユンボ（バックホウ）操作を習いに行き、「小型建設機械安全教育講習済証」をもらいました。この時ばかりは、我ながら勇気ある挑戦だったと思います。何しろ機械オンチ、運動オンチの上、普通車の運転免許すら持っていなかった私なのですから。この証書があれば、とりあえず作業で小さいユンボを合法的に扱わせてもらうことができます。

ユンボの操作そのものは、4本のレバーを動かすだけで、ゴーカートよりも簡単。講習の骨子は、大きな重機を動かすことへの恐怖心を軽くし、落ちついて操作ができるようにすることだったように思います。「レバーをぜんぶ放せば、機械はその位置で止まるからね」「35度まで傾いてもひっくり返らないよ」 走行速度も人より遅いし、まわりをじっくり見て、大きく重いアーム操作に無茶をしなければ、まず事故は起きません。それでもやはりこわい。

18歳以上で2日間の講習を受ければ誰でも講習済証がもらえます。その後3カ月（だったか？）の小型重機（3トン未満）操作の経験を積み、あとはたしか5日ほどの講習で、ブルドーザーであれ、ユンボや他の重機であれ、どんな大型の重機（クレーン等は別）も扱ってよいことになっています。

再整備工事第二期の開始時、搬入された大型のブルドーザーやユンボにまじって、見るからにかわいらしい小型のユンボも1台ありました。最初の週のうちに、古なじみの現場監督さんから、「練習させてやられて言われてるからよ、おもちゃのユンボが空いてる時は、いつでも使ってよ」と言われた時は、びっくり仰天。うわーっ。

保護区内の工事現場には電線もガス管も、車や人も、石すらなし。まわりはベテランのオペレーターさんぞろい。こんな理想的な練習環境はありません。私ばかりか、相棒の佐藤君と石川君、そして職員の富田さんや主人まで練習をはじめました。

管理作業への恐怖の間に、希望の灯火が見えてきたのは、小さいユンボくんのおかげです。ともかく仕事ははかどるし、体力や腕力は必要ありません。道路確保や排水路づくりに使ってみて、感動してしまいました。上池で約60mの排水路を掘りましたが、3時間ちょっとで終了。ところが、スコップでこぼこを直そうとしたら、2、3mの修正に延々1時間の重労働が必要でした。ユンボでは楽々と掘れるのに、スコップではアシの地下茎を三方から切り込んで、ようやく泥がひとすくい持ち上がるという状態。

重機を導入し、草刈用のジョイントを備えたトラクターを手に入れば、広大な現場とはいえ、きっとこなせる作業量だ、という自信と展望が持てるようになりました。

【発送お手伝いのお願い】ニューズレター2023年11月号（第315号）の発送を11月6日（月）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所 〒 _____

ふりがな 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記:9月8日、台風13号による大雨は、茂原市をはじめ千葉県内に大きな水害をもたらしました。下大和田の谷津田とそれに繋がる田んぼも冠水し、ため池のようになりました。もしこの田んぼや森が無くなっていたら、下流域の千葉市や佐倉市はさらにひどい状況だったろうと思います。改めて森林や水田の持つ防災機能を教えられた光景でした。この先いつまでもこの森と田んぼを残していきたいと思います。 mud-skipper

小山地区広域にイノシシ被害はエスカレートする傾向にあつて、YPPの扱う多くの田んぼも修復→対策→荒らされる、繰り返すループが続きました。9月8日、台風13号による4年ぶりの浸水を被りました。おだの倒壊、かかしの流失、土砂の流入等、発生しましたが、幸いYPP田んぼの稲たちはもちこたえてくれました。コシヒカリの稲刈りを終え、10月にかけて古代米を刈り取る日々が続きます。

☆第218回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」2023年 9月 2日(土) 報告：たんぼぼ

コシヒカリの稲刈りをしました。イノシシによる畦の倒壊被害も各所で目立っていたため、その修復を行うとともに、今後の収穫をみこして、たくさんのおだを立てました。猛暑が続いたためか、稲の実は良好な印象です。一方で、初期に鴨被害を受けた田んぼは十分に分けつしていない様子でした。(参加 大人3名)

☆令和5年度期 大椎小学校田んぼの稲刈り 2023年 9月12日(火) 報告：たんぼぼ

悪天候が続き、2回延期後の実施となりました。行く夏を惜しむような心地よい夏日でした。イノシシにより倒されてしまった稲もありましたが、実は良好で豊作な印象でした。大勢の保護者の方々にも参加頂き、とてもスムーズな作業でした。

☆ふれあい自然観察会「秋の谷津田を楽しもう！」2023年 9月16日(土) 報告：赤シャツ親父

4年ぶりの雨台風一過、真夏日が続いていた9月半ばの実施となりました。5家族11名の参加があり、YPP田んぼにて金ざるを用いた水生昆虫採集・観察を行いました。田んぼの端々に台風やイノシシの爪痕も残り、観察範囲は限られてしまいましたが、ヤゴ、サワガニ、水生甲虫類、他、小山田んぼのレギュラー種はひとつとおり観察することが出来ました。次々に現れる水生昆虫に子どもたちは敏感に反応し、よく見て、よく触って、歓声を上げ、親子ともに楽しんでいる様子でした。 参加者17名(大人11名、こども6名)

【谷津田・季節のたより】 2023年 9月

<下大和田町>

9/10 9月8日の台風13号の影響を調べに行く。台風当日は田んぼが冠水したが、この日は何事もなかったように水が引いていた。倒れているオダも無かった。谷津田は「田んぼダム」としての機能を果たしたようだった。

<小山町> 報告：たんぼぼ

9/2 ツクツクボウシとともにクマゼミ鳴く 9/9 田んぼにアリが異常に出現、稲刈りであちこち噛まれる。

9/14 大椎小田んぼ脇に彼岸花咲く 9/19 サル出現 9/28 1週間ぶりの真夏日、ツクツクボウシたくさん鳴く。 9/29 リス忙しそうに動き回る。コジユケイとことこ。

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田>

・第296回 下大和田YPP「古代米の稲刈り」

日 時：2023年10月14日(土) 9時45分～15時 ※雨天などの場合は翌15日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円、会員は無料(小学生以上)

・森と水辺の手入れ

日 時：2023年10月15日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：自然観察路の整備や畦の補修作業などをします

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第297回 下大和田YPP「古代米の脱穀」

日 時：2023年10月28日(土) 9時45分～15時 ※雨天などの場合は翌29日(日)に実施

持ち物：長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円、会員は無料(小学生以上)

・第286回 観察会とゴミ拾い

日 時：2023年11月 5日(日) 9時45分～15時 雨天決行

内 容：秋本番。木の実・葉の色付きを観察しながら秋たけなわの谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物

参加費：100円

<小山町谷津田>

▼第219回 小山町YPP「古代米の稲刈り」

日 時：2023年10月8日(土) 10時00分～ ☆小雨決行

場 所：りんどう広場

上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail; tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい

